

メンタルヘルス通信



ココロリフレッシュルーム Vol:38 2010・11・15

〇七五三

七五三は日本の伝統的なしきたりです。子どもの成長を祝い、これからもすくすくと成長していくようお願いを込めて、神社やお寺などに詣でます。11月15日に行われるとされていますが、北海道など寒い地域では1カ月早めて10月15日に行われることも多く、必ず11月15日に行わなくてはならないものではないようです。子どもの成長を見守ってきた親族にとっては、子どもの成長を改めて感じることもできる、ひとつの節目になるのではないのでしょうか。身内でもなく、晴れ着を着て神社やお寺に詣でる姿を見ると、可愛らしいなあと感じます。

昔は栄養失調などにより乳幼児の死亡率が高く、数えて7歳位までは神の子とされていました。“あの世とこの世の境に位置する存在”とされ、命が定まっていなかったと考えられていたようです。また、女兒よりも男児の生存率が低かったのだそうです。七五三のお祝いができることは感慨も一入であったようです。いつの時代も子どもの健やかな成長を願う思いはかわらないものですね。

七五三のお祝いは、男の子が3歳と5歳、女の子では3歳と7歳に行います。本来は数え年で行われていたようですが、現在は満年齢で行われる場合が多いそうです。男女で異なる年齢でお祝いをしますが、異なる年齢でお祝いをするには、それぞれに意味があるのだそうです。

3歳は、男女ともにそれまで剃っていた髪の毛を伸ばし始める「髪置のお祝い」です。昔は病は頭髪から身体に入ってくると考えられていたため、3歳までは髪の毛を剃っていたのだそうです。

5歳は、男児がはじめて袴をつける「袴着のお祝い」です。7歳は、女兒がそれまでの紐付きの着物に代わって本仕立ての着物と丸帯という大人の装いをする「帯解のお祝い」です。

3歳：男女ともに髪の毛を伸ばし始める「髪置のお祝い」

5歳：男児がはじめて袴をつける「袴着のお祝い」

7歳：女兒が紐付きの着物に代わって帯を締めるようになる「帯解のお祝い」



七五三といえば千歳飴を思い出す人も少なくないと思いますが、その始まりは江戸時代までさかのぼります。浅草の飴売りが千歳飴を売り出したのがはじまりだといわれているそうです。私たちになじみ深い千歳飴にも長い歴史があるのですね。ご高齢の方とお話しをすると私たちの知らない日本の伝統的なしきたりなど、多くのことを教えてもらうことができますね。



〇勤労感謝の日

日本には古くから五穀の収穫を祝う風習がありました。収穫物に感謝する大事な行事として飛鳥時代には新嘗祭(にいなめさい)が行われるようになりました。戦前に行われていた農作物の恵を感じるための新嘗祭が、戦後になってから「勤労感謝の日」と新たに制定されたのだそうです。勤労感謝の日は「勤労をたっぴ、生産を祝い、国民互いに感謝しあう」国民の祝日です。勤労とは肉体労働により何かを生産するという意味に限らず、一日一日を真剣に考え物事の本質へと深めていく態度も含まれるようです。毎日を一生懸命生きることが大切なのだと感じます。

§ 19 : ADHD (注意欠如・多動性障害) その2

今回はADHDについて具体的に考えていきたいと思います。



○ADHDの症状

ADHDの主な症状は、①注意の集中と持続の困難、②多動性、③衝動性の3つです。

- ① 注意の集中と持続の困難 : ひとつのことに集中できない 集中力が長続きしない 忘れっぽい 周りの刺激に気をとられやすくすぐに気がそれてしまう
- ② 多動性 : 落ち着きがない 無意識に体が動きじっとしていることができない おしゃべりをコントロールすることができない
- ③ 衝動性 : 自分の感情をおさえることができない 思いつきで行動する 唐突な行動をとる 自分の発言や行動をおさえることができない

ADHDは社会的ルールを身につけることが求められはじめる頃に見つかる場合が多いです。ADHDをもつ子どもは同年代の子どもに比べて注意力や集中力が続きません。その反面興味のあるものには集中しすぎて、違う課題に移るなど切り替えることが難しいです。先生の話最後まで聞けなかったり、漢字練習など繰り返しコツコツ行うことが苦手だったりします。忘れ物やなくし物も多く、授業中に席を立ちあがって動き回ったり、静かにしなくてはいけない場面で、おしゃべりをやめることができなかったり、大人しくできずたえず身体をゆすっていたりします。次々と違う刺激に反応するため、安全確認をせずに道路に飛び出したり、自分の順番を待てずに横入りをしてしまったりもします。しかし、こういったふるまいをわざとしているわけではありません。意図的に行っているわけではなく、そういった行動特性がADHDの症状なのです。

ADHDは周囲の理解と適切なサポートを受けることで、困っていることを改善していくことができます。そのためにも、早期からその子の特徴にあったかかわりを持つことが大切です。



○大人のADHD

大人のADHDも特徴は子どもと同じですが、多動性は改善されることが多いため、不注意と衝動性が主な特徴と考えられます。細部に注意がむかないために、仕事や家事でケアレスミスや物忘れが多かったりします。人と話していても話の筋道が追えない、段取りが悪い、やり始めたことを最後までやり遂げることができない、大事な予定や約束の時間を忘れる、財布や鍵などを頻繁になくす、しばしば爆発的に怒るなどが考えられます。診断を受けておらず未治療の場合は、ストレスに弱く、感情障害になりやすい傾向があるとされています。

また、大人のADHD診断には子どもの頃にADHD症状が認められたということが必須条件となっています。そのため、養育者からの聞き取りが必要となる場合があります。



ADHDの診断はとても慎重になされます。いかなる場合であっても、素人が行動特徴だけで安易にADHDだと決めつけはいけません。診断を受けてない状態では、適切な関わりを受けることができず、学校や会社で叱責の対象となるケースがしばしば見受けられます。しかし、診断を受けることで、自分の特徴を知ることができ、周囲へ適切なかかわりを求めることができます。それは本人だけでなく、関わり方がわからずに困っていた周囲の人にとっても、救いとなります。失敗や挫折を繰り返し、苦しみを深めてしまう前に、適切な関わりを受けることが大切です。

***心当たりのある方、不安を感じられる方はお電話下さい。 ココロリフレッシュルーム 0142-76-4780**

社会福祉法人 幸清会 ・ 社会福祉法人 大滝福祉会